

令和元年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	36	学校名	静岡東高等学校	校長名	笠井 義明
------	----	-----	---------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

評価はA、B、C、Dの4段階

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当	
ア	授業改善と学力向上	教員の授業参観 年3回以上 100%	全教員の平均で1学期には0.96回、2学期には1.82回の授業参観が行われた。	A	特定の教員だけでなく、多くの教員の授業を参観しやすくする環境を整えていきたい。	研修
		「授業を通して学力や技能の向上が実感できた」と答える生徒の割合 全科目で70%以上	授業アンケートを実施した50科目中、44科目で70%以上を達成することができた。	B	88%の科目で目標を達成できているので、さらに多くの科目で達成できるように授業改善を促していきたい。	
		教員の教科指導セミナー参加者人数 5人以上	予備校等が主催するセミナーに、英・国・数・理・地歴の各教科から1人ずつ合計5人参加した。	A	新教育課程も意識しながら、授業改善や受験指導の参考となる講座に今後も参加していきたい。	
		1・2年家庭学習時間 平日1日平均2時間以上	4, 6, 10月調査平均1時間45分(1年)、1時間22分(2年)であった。	C	6月に比べ10月の調査では大きく減少している。(1年)受験に向けての意識改革が必要である。(2年)	進路・学年
		1・2年11月進研模試偏差値平均 55以上	1年は、国数英総合 56.5 (国 54.6, 数 57.4, 英 54.6)、 2年は、文系5教科総合 54.5 理系5教科総合 51.2、3教科では 53.8 であった。	B	1年は、全体としては目標値を超えたが、7月模試と比べ教科ごとの結果は変動している。継続的な動向分析と対策が必要。2年は下位層の人数が例年に比べて非常に多い。底上げが必要である。	
		センター試験平均点 全国平均+5%以上	全国平均550点に対して、本校の平均は576点、全国平均+4.7%であった。	B	83.4%の生徒が5教科受験の中での+4.7%は十分評価できる。	
		3年予備校DVD講座参加者数 40人程度	昨年度27人だったが、今年度は40人が参加した。(定員40人)。センター試験が近づいた時期は10人程になった。	A	回数を週1回から週2回に増やした。回数が増えた分教員の負担も増した。途中で辞める生徒がいるので、難問に挑戦する生徒に対する教員のフォローに工夫が必要。	
		学習支援プラットフォーム (Classi) の学習指導への活用 (1・2年生)	年3回の学習時間調査に活用した他、東陵セミナーやLHR、部活動等の実績や感想、アンケート回答の蓄積に活用した。	B	活動実績の蓄積は入力率が低く、十分に活用されていない。教科学習に関する動画やドリル等は学年単位では実施していない。学習動画などの効果的な活用を考える必要がある。	
		56期生以降の進路指導計画の確立	来期に向けて継続して作成した。	B	共通テストでの記述試験や業者テストがなくなったことも踏まえて更に検討を進める。	
東陵セミナーにおける探究的学習プログラムとパフォーマンス評価の開発	1年生は、前期に職業人インタビュー・プレゼンテーションを、後期にSDGsについてのポスター制作・ポスターセッションを行った。2年生は、大学見学を行い、夏休み明けにポスタープレゼンテーションを行っ	A	訪問先との連絡調整や質問を行い、良い経験となった。グループ毎のテーマについて協働的に学ぶ機会となった。各自が学部・学科に意識が向くように事前に指導をし、発表につながれた。	※1		

様式第3号

			た。56期1～2年時、57期1年時の探究学習プログラムの基本形は確立できた。		学年ごと展開方法は異なるが、学校のグランドデザインを整理して、育てたい能力を元に、更に充実した活動ができるように検討を進めたい。		
		eポートフォリオによる活動履歴蓄積の推進	56期以降はClassiポートフォリオ機能に実績を蓄積している。	B	3学期に蓄積させた実績のまとめ直しを行い、調査書1年欄の元とした。		
		教員による先進校訪問 4人以上	教員4人が県外の先進校を訪問。また、3人が三島北高を訪問し、探究学習の視察を行った。	A	特にこれから力を入れる探究学習について、参考となる内容が多かった。今後の活動に生かしていきたい。		
イ	志の育成と進路目標への挑戦	キャリア講演・大学模擬授業 生徒満足度 各90%以上	法政大学児美川教授を招きキャリア講演会を行った。88.3%が興味を内容に持ったと回答した。大学模擬授業が役に立ったと感じた生徒は93%であった。	A	キャリア講演会では、社会の第一線で活躍する講師の話聞き生徒の視野が広がった。大学模擬授業では、講座の種類を生徒の実態にもっと合わせることにより、さらに効果的になると考えられる。	進路・学年	
		大学訪問 生徒各自の目標達成率 100%	100%の生徒が大学訪問で各自の目標を達成した。	A	事前に学部・学科研究を行い、夏休み中に各自実施、2学期に訪問結果を持ち寄り、ポスタープレゼンテーションを行った。		
		東大訪問参加者数 40人程度 満足度 90%以上	48人の参加があり満足度は82%だった。60人以上の申込みがあったが、50人程度に絞り実施した。	B	東大の事情でキャンパスツアーになったが、建物の案内になってしまうため、オープンキャンパスのほうが効果的である。		
		センター試験5教科受験率 80%以上	受験者319人中、5教科受験者は266人、83.4%であった。	A	8割以上が5教科を受験している。センター未受験は2人であった。		
		ハイレベル模試 受験者数 学年各30人以上	1年生は22人受験、2年生は24人受験した。	C	受験者数は昨年よりも少なくなった。もっと積極的に指導し、受験者を増やしたい。		
		国公立大学現役合格者数 180人以上	国公立大学現役合格者数は、154人であった。	B	在籍者321人に対して48%が国公立大学に合格し、一定の水準に届いた。		
		難関国公立大学(※6)受験者数 25人以上 合格数 10人以上	難関国公立大学受験者は25人、合格者は10人であった。	A	上位者に対する指導が効果的に働いた。		
		専門教養講座の単位取得生徒数 10人以上	前期1人、後期17人の受講があり、単位を取得した。	A	意欲的に取り組んだ。いい機会であるが、前期の参加者がもう少し出るとよい。	教務	
		生徒個人面談回数 5回以上	予定どおり5回行うような期間を設けた。3年は、大学決定シート作成に向けての面談を行っているため、1、2年の時よりも面談回数は多く、一人5、6回以上行った。	A	概ね実施できてた。担任の負担が大きく、短縮日課、時期・生徒提出書類の検討が必要。3年生の場合、LHR、東セの時間数をもっと確保できれば、さらに充実した面談ができると思われる。		
		静岡大学実験実習講座参加者数 20人以上 満足度 90%以上	参加者32人。「理解できた」「ある程度理解できた」が100%、「興味関心がもてた」「ある程度持てた」が100%であった。	A	3年生にも参加を呼び掛けたことで、生徒の理解度が上がった。		※2
		修学旅行生徒満足度 各コース90%以上	事後アンケートで、台湾コース・九州コースとも、99%の生徒が良い、まあ良いと回答した。	A	グループ活動や歴史、平和学習など充実したものとなった。		2年 ※3
		内湖高級中学授業交流(4月) 満足度 80%以上	90%の生徒が満足・おおむね満足と答えた。	A	英語を実際に話す良い機会となった。訪問者数にもよるが、より多くの生徒に参加させたい。		総務

様式第3号

		留学生交流会の実施	1年生で実施した。内容、理解を深めることができた。生徒満足度95%であった。	A	アジアの国々の若者との国際交流を通じて世界を知り、自分の進路や将来について考えさせることができた。	
		エンパワメントプログラム 参加者数 30人以上 満足度 90%以上	参加者は38人(1年13人、2年23人、3年2人)。事後アンケートの結果、非常に満足が76%、満足が24%であった。	A	1日6時間、5日間の活動で、英会話、ポジティブ思考が大きく身についた。他校との合同開催でそれらの能力はさらに伸びると思われる。	※1 ※4 英語
		英語外部検定 C E F R B1 レベル 80人以上 A2 レベル 300人以上	英検2級(B1)50人、英検準2級(A2)150人であった。GTECのCEFR換算では、B1レベル以上200人、A2レベル以上800人以上であった。	A	GETCをCEFR換算すると、一年生の下位50人を除いては、ほとんどのものがA2レベル以上となるため、目標の再検討が必要である。	
ウ	自主自律の精神と豊かな人間性の育成	遅刻生徒数 1日平均全校で5人以下	1日の遅刻生徒数の平均は、6.3人であった。	B	前年度より数は減っているが、目標には到達していない。体調不良、不登校傾向の生徒が頑張っで登校している。	教務
		「自ら進んで挨拶をしている」と答える生徒 90%	1年生80.9%、2年生79.6%が進んで挨拶しているとアンケートで回答した。	B	生徒会・校風委員会・応援団リーダー部が中心となり挨拶運動を行った。	生徒
		各部活動の目標達成率 80%	部活動活動評価による各部活動目標達成率は84.5%であった。	A	全国大会出場や東海大会出場も多くの部活動であり、各方面での活躍が見られた。	
		最終下校時間 19:30の遵守	93.3%の達成率で、ほとんどの部が下校時間を守ることができている。	A	保護者会等で生徒の帰宅が遅いとの話も若干ある。今後も事故防止の観点から継続して注意していきたい。	
		東陵祭生徒満足度 80%	東陵祭生徒アンケートの結果、概ね80%が良かったと回答した。	B	音演ステージをなくし、日程を詰めて実施した。実行委員の負担を軽減しながら、充実した内容のものを考えていきたい。	
		「高校生活指導プログラム」による系統的な初期指導とクラス目標づくりの実施	1年生では、新入生オリエンテーションや1学期定期テスト前の放課後自学自習を学年全体で実施した。2年生では、クラス目標づくりを4月に行い、目標を教室に掲示した。3年生では、クラス目標づくりをどのクラスも工夫して行った。	A	オリエンテーションの内容や時期については、目指す成果を想定して更に効果的なプログラムを検討する。成果目標通りのことはできているが、スローガンとしてのクラス目標が多く、実際的な行動を促すものにはなっていない点がある。	学年・生徒 ※5
		情報モラル講座の実施	生徒および保護者アンケートを実施し、その結果に基づく講演会やHR面談を行った。	A	生徒の依存度が判明し、生徒保護者の自覚や意識改革にもつながった。依存度の高い生徒には継続して指導している。	
		情報モラル関連の生徒指導 0件	スマートフォンによるトラブルが1件発生した。	B	情報モラルの欠如により不快な思いをする生徒を根絶する。	
		文化教室 生徒満足度 80%以上	見え方、聞こえ方、面白かったか、文化教室実施の是非、鑑賞時間 全ての項目で90%以上の高評価であった。	A	生徒の鑑賞態度についても概ね良好であった。限られた予算内で良い作品や演者の選出ができるよう努力する。	図書
		ビブリオバトルの実施	図書委員を中心に計画通りに運営できた。事後のアンケートは生徒・教員共に好評価であった。	A	図書委員はよく頑張った。生徒全員が取り組むプレゼンテーションの機会であると、教員の共通認識が深まるようにする。	
図書館の貸出本冊数 3,000冊以上	図書館の年間貸出数は9,103冊であった。生徒数の減少があつ	A	良い結果であった。今後も図書館の可能性を引き出し、多機能な図書館			

様式第3号

		上	たにも関わらず、昨年度より大幅な増加となった。		になるよう努力したい。	
エ	命を守る教育の推進	重大な生徒交通事故件数 0件	重大なものは0件であった。	A	交通事故報告についても昨年度より若干の減少がみられた。	生徒
		保健便りによる健康指導回数 15回以上	年間 19 回発行した。そのうち、全 10 回がんにに関する連載を行った。	A	ホームページ掲載および生徒保健委員会との連携を継続する。生徒にとってより身近な連載テーマを設定したい。	保健
		集団を対象とした保健教育の回数 3回以上	5月に熱中症対策講座、7月にがんに関する勉強会、11月に思春期講座を実施。また、保健授業（TT、2時間）を計4回、集団を対象とした保健教育を実施した。	A	養護教諭が講師を担当する保健教育に取り組んできたが、より専門的な情報提供のため外部講師の活用も検討したい。	
		グループエンカウンター実施 各学級1回	職員研修を企画・運営し、年度初めのクラス経営が円滑に行われるようにした。	B	ほぼ全クラスで実施できたが、実施内容には改善の余地がある。さらに内容を精選していきたい。	教育相談
		セラ・プラスの実施と活用 全学年	5月中旬に全学年を対象に実施した。	A	前年度とは異なる質問紙を使用したため、生徒の取組状況は良かった。結果を生徒理解に役立てることができた。	
		1分間カウンセリング（1年生）の実施	1年生全員を対象に、6月下旬に実施した。結果は、学年会で共有するとともに、相談の要望のあった生徒に対し、課員と各学年相談担当の教員とで対応した。	A	本校で初の試みである。質問紙の内容や日程について改善の余地はあるが、各生徒について、抱える問題点を把握することができた。	
		地域防災訓練への生徒参加率 80%以上	地域防災訓練への参加率は84.2%であった。	A	1年生のみ参加した。（2年生は修学旅行のため不参加。）今後も参加率80%以上を目指したい。	総務
	一斉メール配信を活用した安否確認訓練の実施	地震発生時（中部震度5強以上）自動で安否確認メールが配信されるようにした。メール登録した生徒に安否確認のテストメールを送ったところ735件の（89.3%）返信があった。	A	安否確認メールの自動配信は効力を発揮すると思われる。返信率95%以上を目指したい。		
オ	広報活動の充実と教育環境の整備	土曜公開授業の参加者数 計 1,600人以上	参加者数は 1,514 人であった。	B	10月に台風による中止があったが、参加者は昨年度比2%増加した。猛暑日の体育館における説明会開催が課題。	教務
		土曜公開授業外部評価 満足度 90%以上	満足・まあ満足の割合は85.3%で、昨年度よりも3%程度低下した。	C	参加人数が多かった9月（2回）が、残暑が厳しく、説明会場が暑いという声が多かった。そのことが影響していると考えられる。	
		土曜公開授業での校内美化点検の実施	美化委員により、公開日前日と当日朝の清掃点検を実施した。また、運動部・生徒会の協力により、当日朝の清掃を行った。	A	事前に美化委員会を開催することにより清掃点検への取り組みが良好であったので今後も継続したい。	保健
		HP更新頻度 週5回以上	スマートフォン対応処理のため更新できない時期を除いて、毎日HPの記事を更新した。	A	授業の様子や行事など学校の情報を多く発信することができた。	情報
		HPにおける各部活動の活動報告 学期1回以上	各部活動活動報告を3か月に1回（年間4回）HPに掲載した。	A	各部活動の大会結果だけでなく普段の活動内容を報告することができた。	

様式第3号

	事務室窓口へのクレーム件数 0件	事務室窓口へのクレームはなかった。	A	事務室内及び教職員と情報共有を図り、円滑で丁寧な窓口・電話対応に努めることができた。	事務 (保健)
	月1回の安全点検の実施	日頃の清掃活動や、授業公開日前日の清掃個所の安全点検を行うことができた。月1回の事務担当の目視による点検と、毎日の技能員による見回りに加え、教職員による安全点検を実施した。	A	日頃から事務室と教職員と連携して情報共有を図り、安全で安心な施設設備の維持に努めることができた。清掃用具や消耗品の補充などの機会に事務室と連携を取り、校内の環境整備や安全についての情報共有をさらに進めたい。	
	ごみ処理費前年比減	年間のごみ排出量は、前年度に比べて約9割に減少した。	A	来年度以降も、ごみの持ち帰りや古紙の分別などを呼びかけ、さらに減量できるようにしたい。	
	「信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上	「信頼できる先生がいる」と答える生徒は全体で80.4%であった。	A	目標は達成できた。さらなる信頼を得られるよう努力したい。	管理職
	学年主任連絡会の実施3回以上	学期末の成績ヒア時に集まった以外では、連絡会としては実施しなかった。	C	連絡会として定期的には実施することは難しかった。	
	一分掌一業務改善の実施	(総務)新聞データベースシステムを利用して、本校関連の新聞記事を効率よく収集できるようにした。メールの自動配信システムを用い災害時の安否確認を行うことができるようにした。(生徒)内規の見直しを行い、生徒指導基準を明確にし、指導し易い体制を整えた。(進路)東陵室開放に伴い夏期学習推進期間を廃止し負担の増加をなくした。(図書)教員の授業時間割を工夫し、昼休みの図書館業務の円滑実施を図った。(保健)美化倉庫の継続的管理ができるよう掃除監督分担を工夫した。(相談)相談室便りの内容を検討し、発行回数を減らした。本年度までの反省から、来年度グループエンカウンターを1年生のみに実施することとした。	A	ほとんどの分掌で、改善できる部分を探し、業務改善を行った。業務量全体は依然として多いので、更なる業務の見直しを行いたい。	管理職
	校務分掌・部活動の統廃合による校務の整理	部活動検討委員会を開き議論した。また、校内委員会について廃止と新設を行った。	B	引き続き、部活動の統廃合の方針、分掌組織の改編について検討していく。	
	学習支援プラットフォーム(Classi)のアンケート機能を活用した校務の効率化	アンケート機能を用いて、各種調査に活用した。	B	前年度よりアンケート件数は減少している。生徒のClassiへの距離が近くなると感じるよう、さらに推進したい。	